

令和 8 年度
北九州市立看護専門学校
社会人入学試験

国 語 問 題 用 紙
(50 分)

<注意事項>

- 1 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないでください。
- 2 この問題冊子には、問題用紙が 19 ページまであります。
- 3 落丁・乱丁のある場合は、手を挙げて試験監督者に知らせてください。
- 4 解答用紙には、受験番号と氏名・フリガナを忘れずに記入してください。
- 5 問題冊子は回収します。

受 験 番 号

第1問 次の文章を読んで、後の問い(問1、問8)に答えなさい。なお、設問の都合上、表記を改めたところがある。

同じ世界観でも、人によって、状況によって、その意味内容が異なる。例えば、資本主義や民主主義について、政治的自由や経済的自由を単純に捉えず、利己心の偏重が助長されることを懸念するかもしれない。自国の文化、歴史、伝統に対し、^⑦ケイアイを表す愛国心の世界観は、自国を優先するあまり他国を排除することを正当化しかねないと懸念するかもしれない。

このように、世界観の多様性、そのダイナミックな性質、個々の世界観に込められた批判的視点は、人間の認識の複雑さをよく表している。人はその本性として、そんな¹世界観を具体的な目的と実践に結びつけたいと願っている。人は世界観に即して、生きる目的を自らの大義として定めるのである。

ここでいう大義とは、個人の自由や功利を超えた、倫理的、社会的、哲学的な目的のことである。一般にはこの用語を高潔な目標を指すことに使用する。しかし本書では広く解釈して、任意の向社会的な行動を正当化する倫理的な根拠として使うことにする。つまり、^(註)ガンジーのような^⑧イジンになるということではない。節電や節水を日々実行することも、地域の食品不足に悩む人々を支援することも、立派な大義になる。

本書は、世界市民が意識的に、A を超えた大義を見出し、それを実行することによって、²現代において最も重要とされる社会問題を解決していくことを考える。多くの市民が自己実現を果たすことができる社会をどのように構築したらいいか。経済学の立場から、そしてそれを超えた哲学的立場からこの問いに向き合おう。

経済学は、その創成期から現代にいたるまで、一国が経済的に発展することを、国内における経済的富が蓄積されることであると捉えて、それを社会的善の最も重要な達成目標としてきた。国内で生産された財・サービスの市場価値の総和を表す国内総生産(GDP)は、このような社会的善を表す代表的な評価指標である。そして、市場競争という「見えざる手」によって、意図せざる仕方で、利己心こそが経済発展を導くという、一見B な考え方が様々に検証されてきた。

市民は、最低限のマナーを備えてさえいれば、利己的動機だけで最良の社会的善を導くことができる。道徳的、社会的大義を追求するような善行は、社会的善にとってマイナスになりかねない。

今から300年ほど昔、オランダ生まれの医者バーナード・デ・マンデヴィルは「蜂の寓話——私悪すなわち公益」を出版して、個人の利己的な行動が意図せずに社会全体の経済的豊かさをもたらすという考え方を、初めて明確に示した。贅沢や^a虚栄心といった個人の悪徳が実は経済活動を刺激し、結果として社会的富を増大させる。善行が社会に利益をもたらすわけではない。マンデヴィルのこの考え方は、後の経

済学、特に経済学の父とされるアダム・スミスによる見えざる手の④ガイネンに多大な影響を与えることになる。

スミスは、個人が利己的利益を追求することが、市場競争を通じて、まるで見えざる手に導かれるかのように、経済的富の増大に貢献すると論じた。その一方で、経済的富とは別の社会的目的、例えば社会福祉や公平性に対しては、利己心があまり貢献できないことも認識されていた。スミスは国家の役割をそこに位置付けようとしたが、残念ながら、深い洞察と広範囲の意識的な社会貢献の必要性を認識するには至らなかった。

スミスは、利己心の中にもいくばくかの道徳があるために、相手と⑤ショウトツせず取引を円滑に進めることができるなど、柔軟な視点も示していた。しかし、それは社会に積極的に貢献したいとする大義からはおよそかけ離れた、営利取引者の最低限のマナーに過ぎない。経済活動が環境に及ぼす影響に至ってはそもそも考慮の対象にすらならなかった。

スミスのように、利己心が市場を通じて社会的善に貢献すること、利己心と社会的善が倫理的に矛盾しないことを前提とするこのスタンスは、「市場至上主義イデオロギー」と称される。市場至上主義イデオロギーは、今日に至るまで経済学の高高等教育に深く入り込んでいる。そのため、経済的富以外の社会貢献については副次的な扱いにされがちになる。

例えば、経済学の講義においては、市場競争が経済的に無駄のない、効率的な資源配分をもたらすことを数理的に華麗に証明して見せる。（ここは期末試験にも出題しやすい。）その一方で、配分の公正や平等については歯切れの悪い説明に終始する。（これは試験には出しにくい。）高等教育の現場において、これらを副次的でなく説明することと、経済学の基礎についての理解を促進することをうまく両立させるのは困難にさえ感じられる。

後述する現代の主要な社会問題に照らしてみるならば、教育の現場において市場至上主義イデオロギーに固執することは時代の要請にそぐわない。^bステレオタイプ化された経済学のスタンスにおいては、市民の意識的な社会貢献への意思は、不必要とされるか、副次的な意味しか持たない。しかし、経済的富以外の社会貢献や社会的責任についてはどうだろうか。それらは、市民の意識的な大義の実践抜きでは達成できない。

大義を実践するためには、まずは関心のある社会問題に何らかの形でコミットして、我が身のこのように関与することが必要だ。しかしこのコミットメントは³ひと時の気まぐれに終わることが多い。利己心を超えて人に尽くしたいと思っても、結局は私利私欲に負けてしまい、気持ちが続かないのだ。

このことは喫煙者の葛藤にもなぞらえられる。喫煙は体に悪いことだとわかっていてもついつい煙草を吸ってしまう。そこで、煙草を遠ざけることのできる方法をいろいろ模索する。外出時には煙草を持参しないとか、かかりつけ医に煙草の害を口酸っぱく説明してもらおうとか、いろいろ工夫してみる。それでも誰かから煙草を勧められると、ついつい悪い癖が出てしまう。大義もまたしかりである。私利私欲を超えた

公共の利益に自らを持続的に関与させ、公共への高い忠実を維持することは並大抵のことではない。

人は、まず問題についての知識と理解を深めようとする。それによって問題に関心をもつようになり、問題の解決が利己心を超えた倫理的な喜びをもたらすと感じるようになる。さらに、この問題に自らがコミットすることにより、問題解決から得られる喜びが一層高められる。こうして、この問題の解決を自らの大義と定め、より具体的に行動するようになる。しかし、このような倫理的な動機は、外的な要因に左右されやすく、何らかの工夫がないことには脆く^{もろ}て持続しそうにない。

大義の全うの難しさには別の理由もある。一般に、個人の社会貢献は思ったほど大きな成果を生まない。このことを知ると、コミットメントは弱まり、持続できなくなる。ならば、同じような大義をもつ人同士が集まって協力すればどうだろうか。そうすれば一人では達成できないもつと大きな社会貢献も持続できるのではないだろうか。

大義の実践にはこのような組織作りの役割がとても大きいと考えられる。特に法人企業は、単なる個人の集合体をはるかに超えた社会貢献をもたらすことができるはずだ。企業が商業的な方法によって、営利追求とともに社会的責任をも果たすならば、市民は従業員としてその企業に参加して、企業と仕事に対する高い忠誠心とエンゲージメントを保ちながら、自らの大義を実現できるかもしれない。このように、企業や組織には、市民の大義の実現のためのプラットフォームになること、そしてさらに大規模で効果的な社会貢献を持続的に達成する装置になることが期待される。従業員にとって、企業は生活の糧を得るためだけでなく、自己実現のための居心地のいい場所になりうる。

では、現代における最も重要な社会問題とは何か。【Ⅰ】その主要なものは「サステナビリティ（持続可能性）」という理念に集約することができる。サステナビリティとは、環境、社会、経済の三つの側面を総合的に考慮し、未来世代にも十分な資源や環境条件を提供することを目指すなければならないという理念である。

例えば、環境的視点から、サステナビリティは、経済活動が環境に与える影響を最小限に抑え、セイ^④タイ系を保護することを目指す。森林伐採、生物多様性の減少がセイタイ系に悪影響を及ぼしている状況を何とかしなければいけない。【Ⅱ】

中でも気候変動は最も深刻な環境問題である。地球温暖化が進行し、極端な気象事象や海面上昇が問題となる。気候変動問題の解決のため、CO₂^②（あるいは温室効果ガス）の排出をグローバルに削減し、化石燃料に頼らない持続可能なエネルギー方式へ転換しなければならない。

社会的視点から、サステナビリティは、貧困、格差、社会的不平等を深刻な社会問題と捉えて、公平な社会を追求し、誰もが機会と福祉にアクセスできることを目指す。健康や労働条件の改善、教育の普及、食品の安全、住環境の安全、社会的包摂、人権の尊重など、生活の質の向上を目指す。

経済的視点から、サステナビリティは、鉱物資源、水、食料などの枯渇を重要課題とし、持続可能な資源管理を目指す。経済活動が未来世代にわたって持続可能であり、資源の適切な管理とともに、経済成長の健全性を、個人、企業、政府など、様々なステークホルダー（関係当

事者)に求めていく。

産業革命以降、世界はこのようなサステナビリティに注意を払わず、気付きすらせずに経済的富の蓄積に邁進^{まいしん}してきた。【Ⅲ】その結果、現代において環境や社会は大きなダメージを受けている。経済発展によって、CO₂の排出量が劇的に増加し、気候変動が深刻化してきた。このままでは近い将来において、生物種絶滅や自然災害といった不可逆で壊滅的な被害が地球規模で起こり、環境、経済、社会といった様々な側面に大きなダメージが生じてしまう。【Ⅳ】

サステナビリティが意味する現代の社会問題は、総括すると、過度の経済成長の結果、環境問題が深刻化し、それが世界市民の経済的生活水準の問題を超えて生命や尊厳をおびやかし、未来世代に不可逆な損失を与えてしまうことをいかに回避して、文化的に豊かな生活を持続させることができるか、ということだ。利己心と見えざる手だけでは、これは解決されない。世界市民が意識的にこの解決に取り組まなければいけない。世界市民が未来世代を心配し、サステナビリティの大義を持ってこの問題に深く関与しなければいけない。

サステナビリティは、世界市民に意識的な社会貢献をすることを強く求めている。このことは、見えざる手による経済発展とは対極にある。経済的富の無思慮な蓄積の行く末は、未来世代に不可逆で壊滅的なダメージを及ぼすことに他ならない。経済発展が停止するだけではない。その帰結として市民の生存や尊厳が脅かされ、自然環境が破壊され、文化的な停滞が同時に起こる。【Ⅴ】これは地域ごとの問題ではなく、⁴世界全体をまきこむカタストロフィである。世代や地域を超え、異なる文化や社会について相互に尊重し、みんながこのグローバル・カタストロフィの回避に参加しなければいけない。

(松島^{ひとし} 斉『サステナビリティの経済哲学』より)

(注) ガンジー — マハトマ・ガンジー (一八六九—一九四八)。非暴力不服従によるインドの独立運動を主導した人物。

問1 二重傍線部⑦～⑩と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選び、解答用紙に番号で答えなさい。

⑦ ケイアイ

- ① 首相がヒョウケイ訪問を受ける
② ケイソツな行いを反省する
③ 恩師にはケイハツされることが沢山あった
④ ライバル会社と業務テイケイを結ぶ
⑤ ケイシャのきつい道を歩く

⑧ イジン

- ① イドを掘る
② 史上初のイギョウを成し遂げる
③ イギを正して式に列する
④ 交番でイシツ届を提出する
⑤ 被災地をイモンする

⑨ ガイネン

- ① ダンガイ絶壁に立つ
② 雑誌で見た美しいガイロ樹を見に行く
③ あの思い出話はカンガイ深いものがあつた
④ ショウガイをかけて一つの作品を作る
⑤ 計画のガイヨウを述べる

㊦ ショウトツ

- ① 原簿とショウゴウする
② カンショウ材を間に入れる
③ 病気がハッショウする
④ 選手がショウリ宣言をする
⑤ 主語をショウリヤクする

㊧ セイタイ

- ① 衣類がタイデンする
② タイレッツを組んで行進する
③ 制服をタイヨする
④ 昆虫がギタイする
⑤ タイキュウ性をテストする

問2 二重傍線部 a、b の意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選び、解答用紙に番号で答えなさい。

a ① みえ ② うそ ③ 利己的 ④ 名誉欲 ⑤ 見せかけ

b ① 荒唐無稽 ② 時代錯誤 ③ 古今東西 ④ 伝統主義 ⑤ 固定観念

問3 空欄

A

B

号で答えなさい。

を補うのに最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選び、解答用紙に番

- | | |
|-------|-------|
| B | A |
| ① 科学的 | ① 社会性 |
| ② 逆説的 | ② 志向性 |
| ③ 常識的 | ③ 愛国心 |
| ④ 実体的 | ④ 日常性 |
| ⑤ 潜在的 | ⑤ 利己心 |

問4 次の一文を挿入する場所として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答用紙に番号で答えなさい。

現代社会は、地球環境の変化と市民の意識の変化に伴って、非常に多くの課題を抱える状況になっている。

- ① 【I】 ② 【II】 ③ 【III】 ④ 【IV】 ⑤ 【V】

問5

傍線部1「世界観を具体的な目的と実践に結びつけたいと願っている」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答用紙に番号で答えなさい。

- ① 人間は、多様で動的な世界観を固定することで倫理的・社会的・哲学的な目的の達成や、自身が行う社会的な行動を正当化していきたいと思っているということ。
- ② 人間は、認識の複雑さを示す世界観が個人の生きる目的だけで終わることなく、それが理想的で普遍的な行動として共有されることを願っているということ。
- ③ 人間は、批判されがちな個々の世界観を個人の価値観とは無縁なものへと高めつつも、それと同時にそれを実行に移していきたいと思っているということ。
- ④ 人間は、人それぞれが持っている世界観に個人として社会に貢献するための行動を適合させて、倫理的に生きていきたいと思っていること。
- ⑤ 人間は、社会の利益に貢献することを目的として世界観を構築するが、それを実践していくために多様な世界観を統一したいという願望を持っているということ。

問6 傍線部2「現代において最も重要とされる社会問題」とあるが、なぜそのような問題が起こるのか。その説明として最も適当なものを、

次の①～⑤のうちから一つ選び、解答用紙に番号で答えなさい。

- ① 経済的な発展ばかりに目がくらみ、経済的富の流動性が低くなってしまったから。
- ② 大義が成り立たせていた均衡が崩れるほど、人間が利益ばかりを追求するようになったから。
- ③ 人間が環境や社会、経済の持続ができなくなるほど、過度な経済成長を追い求めたから。
- ④ 社会貢献が大義ではなくなり、経済活動が最低限のマナーによってなされているから。
- ⑤ 市場競争が激化したことで、人間が利益を得るための手段になってしまったから。

問7 傍線部3「ひと時の気まぐれに終わることが多い」とあるが、筆者はそれを避けるためにどうすることが重要だと考えているか。その

説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答用紙に番号で答えなさい。

- ① 利己的利益の追求を、経済的富の増大につなげていくこと。
- ② 私利私欲を抑えるために配分を公正で平等なものにしていくこと。
- ③ 公共の利益に自らを持続的に関与させ続ける意志を持つこと。
- ④ 社会的目的を共有する人々が協働するための組織を設立すること。
- ⑤ 倫理的な喜びの基盤となる、社会問題への関心を持つこと。

問 8

傍線部 4 「世界全体をまきこむカタストロフィである」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答用紙に番号で答えなさい。

- ① 経済的利益の追求が市民の尊厳を奪い、自然を徹底的に破壊することで、各々の文化が行き詰まってしまうということ。
- ② 市民の尊厳を保ち、自然環境破壊や経済的停滞を避けるためには、サステナビリティの大義が必要であるということ。
- ③ 経済的利益の追求が最終的に、世界的規模で市民の生存や尊厳を脅かし、自然環境破壊や文化的停滞を引き起こすということ。
- ④ 世界的規模で様々な社会問題が噴出することを避けるため、世界中の市民に意識的な社会貢献が求められるということ。
- ⑤ 異文化や異社会の尊重により発生する世界的規模での自然破壊や文化的停滞から、世界中の市民が逃れられなくなるということ。

第2問 次の文章を読んで、後の問い（問1～問8）に答えなさい。なお、設問の都合上、表記を改めたところがある。

次に注目したいのは、¹椅子がほかのモノとともにネットワークを立ち上げることで、ある空間を家化するという機能を持つという観点についてです。椅子はただ座ることを可能にするという機能を持つだけではなく、さらには私たちの個々の活動をサポートするだけではなく、もつと創造的な機能を担っていると言えるのではないのでしょうか。

椅子が置かれることで、家のなかの特定の位置が、ある行為をするための場所となります。部屋の片隅にビーズクッションを置けば、それまでなんでもない、特に使われていなかった空間が、くつろいで映画を観るための場所となります。スツールを持ち込むことで、キッチンが^a即席の食事処^{（エッセンシャル）}になります。このように、椅子の配置は、家のなかに何かを行う場所をつくり出すことができます。つまり、椅子には「なかをするための場所を生み出す」という機能が備わっているのです。

私たちは、自身の生活の都合や希望に合わせて椅子を選んでいきます。自分で椅子をつくる、という人もいるかもしれませんが、あ、その最初の選択の場面では、^{（注1）}パーソンズ&カルソンが説明するような、いわゆる「椅子」カテゴリーのなかでの位置づけによる機能美を見出し、そのためにその椅子を選んで買ってくる、あるいはこんな椅子をつくらうと思いつくということになるかもしれません。

い、ひとたび選ばれて家に加わった椅子は、家のなかでただ座る、というだけではなく、もつと複雑な機能を果たすようになります。私たちの身体がなにか特定の活動をする場をつくり、またその積み重ねによって家という場所をつくり上げていきます。私たちは椅子を配置することで、家という世界をつくり上げていくのです。椅子はこの小さな世界制作を、私たちとともにに行っていく大事な相棒です。場所をつくること自体は、そのほかの家具や道具にもできることでしょう。しかし椅子はそのA ゆえに、いわば家をつくっては壊し、またつくっていくことを可能にする点で、やや特殊であるように思われます。

私のキッチンには、たびたび持ち込まれるスツールによって、仕事場や食事処が現れては消えていきます。ビーズクッションの位置が定期的に変えられることで、家のなかのどこがくつろぎの場であるのかも変わっていきます。それはその時々^{（しおどめ）}の気分や家族の事情に合わせた工夫です。

二〇二一年にパナソニック汐留美術館で開催されたフィンランドの建築家・デザイナーであるエリエル・サーリネン（一八七三～一九五〇年）に関する展覧会、「サーリネンとフィンランドの美しい建築」展の会場には「デザインとは、ひとまわり大きな枠組みから考えるもの。椅子は部屋から、部屋は家から、家は周辺環境から、その環境は都市計画から考えるのです」というサーリネンのことばが掲げられていました。

このサリネンのことばは、もしも椅子をデザインしようとするのであれば、それがどのような部屋に置かれるかをまず考慮すべきだということを意味するものでしょう。部屋が求めるものを満たす椅子をつくる——これは、ヴィトレスクと呼ばれる彼自身の居住地を、建築から家具、小物に至るまで生み出していたデザイナーの視点であると言えます。

ですが、あらかじめ建てられていた分譲マンションである我が家の出来上がっていった過程を考えるのであれば、選んだ椅子のほうが部屋をつくり上げていったと言うほうが正確であるように思われます。サリネンとはまったく逆の発想です。それだけではただ一定の広がりを持つだけの現代的な家という空間を、特定の人々が住むのに適した場所へと作り替える力を、椅子をはじめとする家具は持っているのです。ふつう「椅子」というカテゴリーで想定される機能の範囲を超え出る機能を、椅子は担いえると言えます。

X

私たちの社会においては、日々さまざまなモノが生み出されています。そのすべてが生産され続けていくわけではありません。あるモノが今も生産されているとすれば、それと同じ種類のものが市場において受け入れられ、つねにその存在を望まれ続けてきたからでしょう。

パーソンズ&カールソンは、このようにあるモノが市場の淘汰とうたを生き延びることに寄与した機能こそ、その2モノの本来の機能だと考えます。ある使用者が強く推している機能があつたとしても、市場における淘汰を経たものでなければ、それは本来の機能としては認められません。人工物の機能は、そのモノの負っている歴史によってある程度固定されているのです。だとすれば、機能についての知識にもとづくカテゴリーを用いていれば、一定の客観性を持って日用品の美的価値を測ることができると二人は考えるのです。

パーソンズ&カールソンがこのような立場を取るのには、日常美学という分野が「なんでもあり」の無法地帯になることを避けるためです。序章でも述べたとおり、私たちの日常生活は人によって千差万別です。椅子一つ取ってみても、おそらく各家庭においてまったく異なる形をしたものが選ばれ、まったく異なる仕方で配置されているでしょう。そうすると、なんの基盤もなしに日常美学について語り始めると、それは結局個人の感想合戦になってしまう危険性さえもあるのです。

ここは確かに難しいポイントです。人それぞれでなんでもあり、という話になってしまうと、美学、はんなちゅうという学問の範疇で日常について扱う意味がなくなってしまう。ただ、市場によってトップダウン的に決まっている機能だけで私たちの家での生活を捉えられるかという点、それも疑問です。私たちの日常は創意工夫に満ちている。その点をなんとか捉えていくことも、日常美学の大事な使命であるように思われます。

人それぞれがう日常と感性の関係を考えるとき、思い出すことがあります。私が子どもの頃住んでいたマンションには、同じ年頃の子どもが何人か住んでおり、彼女たちと家を行き来することがありました。その際、彼女たちの家が、間取りはそう大きく変わらないはずなのに、自分の家とあまりに異なるテイストを持っていて、「本当に同じマンションだろうか？」とよく驚いていました。

領域横断的な文化研究で知られるフランスの学者ミシェル・ド・セルトー（一九二五―一九八六年）は、私たちの日常生活を「なんとかやっていくこと」ということばで表現しています。

私たちの生活の場は、間取りとしての家にせよ都市にせよメディア環境にせよ、企業や制度などの大きな存在によってすでに与えられているものです。現代社会においては、個人に先立って権力を持つ存在があり、それらが提供するシステムのなかで私たちは生きています。

私の幼少期の家も、不動産会社が計画的に建てたマンションで、その間取りは自由に動かせるものではありませんでした。このように、システムの側が用いる権力性ある計画のことを、セルトーは「戦略」と呼びます。

ですが私たちは、そのシステムの網の目を掻い潜り、システムのなかに自分や文化に固有の生き方をひっそりと成立させていきます。他者に与えられた場でなんとかやっていくために、人々は工夫を凝らしていくのです。セルトーはこれを「戦術」と呼びます。

友人と私の家が全然ちがう見た目をしていたのも、この工夫のためです。その家同士のちがいは、すでに与えられた、「豪邸」とはおおよそ呼べないような間取りのなかで、それぞれの家族構成にとって適したかたちでなんとか暮らすための、さまざまな工夫の成果だったのでしょう。私たちは、3 個人の力を超えた領域によって与えられるモノを、自分たちのやり方で工夫して用いていくのです。

以上の議論を踏まえて、もう一度、家のなかでの椅子の機能美を捉え直してみましよう。

パーソンズ&カールソンの議論では、カテゴリーを介することで、ある椅子はそのほかの椅子との B な関係において機能美を持つと考えられていました。セブンチェアがびつたりに見えるのも、アアルトのstuhlがシンプルに見えるのも、パントンチェアが視覚的緊張を持つように見えるのも、すべて椅子カテゴリー内部での位置づけによるものでした。

ですが、家のなかでの椅子の機能は、そうした椅子一般との関係から捉えるだけでは見えてこない側面を持つように思われます。

家のなかでの椅子は、まずその椅子を使用する私たちの身体との関係において、機能の評価されるでしょう。本を読む、食事をするなどの活動を椅子がうまくアシストしてくれているとき、私と椅子は一体になります。その際、^{（注2）} ロバーツが言っていたように、広い意味での触覚が椅子を捉えるでしょう。ロバーツ流に言えば、このとき椅子の「座り心地が美しい」と言えるような、そんな意味での機能美が立ち上がるのです。

また、ある椅子がそのほかの椅子、あるいは椅子以外の家具やモノとのネットワークのなかでどのような役割を果たしているかという観点からも、家のなかの椅子の機能は評価されます。私たちは家のなかにモノを引き入れていくことで、ネットワークを構築し、自分の生活を送っていきます。椅子はこのネットワークを支える主要なモノの一つです。

このように考えると、家という場所でモノの機能美を感じるということは、たんにそのモノが単体としての美を、鑑賞者の視点から眺めるというだけではない、と言えるでしょう。

もちろん、私も自宅にある椅子を、単体で、その見た目だけみて、たとえばパーソンズ&カールソンの言う「合理的な見た目」の機能美を感じることができます。

しかし、⁴ その椅子を自分の家のなかでどう使うのか工夫を凝らすなかでも、椅子の機能美を感じることができるのではないのでしょうか――これが本節で考えてきたことです。

実際に椅子に座ってみたり、家のなかのほかのモノとの関係性のなかで適していると思う位置に椅子を配置したりして、じっくりいったときの感覚。すべてが思い通りになるわけではない状況のなかで、当意即妙にモノを組み合わせていくことに伴う創造性と面白さ――椅子がネットワークのなかでうまく機能するとき、私たち自身がその椅子を用いて家をつくり上げていく経験のなかで、「この家のなかでこそ発揮されるこの椅子の機能美」を感受することができるのです。

（青田麻未『「ふつうの暮らし」を美学する 家から考える「日常美学」入門』より）

（注1）パーソンズ&カールソン ― グレン・パーソンズとアレン・カールソン。ともにカナダの美学者。

（注2）ロバーツ ― トム・ロバーツ。イギリスの美学者。

問1 二重傍線部 a、b の対義語として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選び、解答用紙に番号で答えなさい。

- | | a | b |
|---|----|--------------------------|
| ① | 入念 | 粗品 |
| ② | 適当 | 一品 |
| ③ | 丹精 | 実用品 |
| ④ | 的確 | 嗜好品 <small>しこうひん</small> |
| ⑤ | 過剰 | 贈呈品 |

問2

空欄

あ

・

い

えなさい。

を補うのに最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選び、解答用紙に番号で答

① かりに

② しかし

③ つまり

④ したがって

⑤ いずれにせよ

問3

空欄

A

、

B

号で答えなさい。

を補うのに最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選び、解答用紙に番

A

① 可動性

② 道具性

③ 機能性

④ 日常性

⑤ 視覚性

B

① 絶対的

② 相対的

③ 普遍的

④ 偏在的

⑤ 領域的

問4

空欄

X

に入る〔1〕～〔4〕の文を正しく並べたものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答

用紙に番号で答えなさい。

〔1〕同じ椅子を買ってきて、その椅子に座ってなにをするのか、あるいはどんな部屋をつくるのかは十人十色でしょう。

〔2〕モノの機能とは社会においてすでに決定されるものであり、そして機能美とはあくまで視覚を主として感じられる美であるとするこ
とで、日常の領域においても客観的な美的判断が成立するのだと二人は主張しています。

〔3〕しかしそうすると、椅子は個々の家において、それぞれ少しずつ異なる「機能」を果たすことになります。

〔4〕実はバーソーンズ&カールソンの議論は、こうしたあいまいさを避けるためのものでもありません。

① 〔1〕↓〔4〕↓〔2〕↓〔3〕

② 〔2〕↓〔4〕↓〔3〕↓〔1〕

③ 〔3〕↓〔1〕↓〔4〕↓〔2〕

④ 〔4〕↓〔1〕↓〔2〕↓〔3〕

⑤ 〔4〕↓〔2〕↓〔3〕↓〔1〕

問5

傍線部1「椅子がほかのモノとともにネットワークを立ち上げること、ある空間を家化する」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答用紙に番号で答えなさい。

- ① 椅子には椅子だけで家のなかにただ存在するだけの空間に、ある行為をするための場所を創造することができる機能が備わっているということ。
- ② 家のなかの特定の位置に椅子があることにより、その場所でする行為は限定されてしまうが、その行為は固定され続けるのではなく少しずつ変わっていくということ。
- ③ 一定の広がりがあるだけの空間が、椅子がつくったモノとの関係性のなかである行為をするための場所となり、その蓄積によって家という世界がつけられるということ。
- ④ 私たちは家という一つの空間を快適なものにしていくために、自身の生活の都合や希望、好みを考慮に入れて椅子を選ぶ工夫をしているということ。
- ⑤ 椅子に限定されない、モノとモノとのつながりから生まれるネットワークによって、ただそこに存在するだけの椅子が安らげる場所に変わっていくということ。

問 6

傍線部 2 「モノの本来の機能」とあるが、それはどのような機能か。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答用紙に番号で答えなさい。

- ① 初めてモノがつくられたときから変わることのなかった機能。
- ② 椅子に座った人間の見た目や視覚的な美しさを整える機能。
- ③ 家をつくっては壊すという、椅子に備わっている機能。
- ④ 椅子に備わる、家という世界を美しく創造する機能。
- ⑤ 市場の選別に耐え、社会的に求められ続けてきた機能。

問 7

傍線部 3 「個人の力を超えた領域によって与えられるモノ」とあるが、それはどのようなモノか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答用紙に番号で答えなさい。

- ① 市場において徐々に決定されていく、そのモノ本来の機能が備わったモノ。
- ② 個人に先立って権力を持つ、企業や制度などによって提供されるモノ。
- ③ モノのネットワークの中心に位置づけられる、社会的な機能を備えたモノ。
- ④ 工夫に満ちた日常生活の実現を難しくする、企業や制度により与えられたモノ。
- ⑤ 市場により既に与えられた、特別で小さな私たちの日常とは相いれないモノ。

問 8

傍線部 4 「その椅子を自分の家のなかでどう使うのか工夫を凝らすなかでも、椅子の機能美を感じることができる」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答用紙に番号で答えなさい。

- ① 椅子の美的価値は社会的・歴史的価値にあるというよりも、人それぞれの創意工夫に満ちた日常生活から自然に生まれてくるところにあるということ。
- ② 椅子の機能美は歴史によってある程度固定されているとはいえ、日常生活における人それぞれの使い方のなかでさまざまに変えることができるということ。
- ③ 機能美はモノのネットワークと、自分たちのやり方で工夫して椅子を用いる消費者たちの姿勢といった二つの側面から生まれてくるものであるということ。
- ④ 椅子の機能美は、椅子が身体によくなじんでいるときに加え、工夫して配置した椅子がほかのモノとの関係性のなかでうまく機能したときにも立ち現れうるということ。
- ⑤ 日々さまざまなモノが生み出される現代社会では、椅子に必要なのは主観的な機能美だけではなく、客観的な機能美も必要になってくるということ。